

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	58	学 校 名	掛川工業高等学校	校 長 名	中村 博志
------	----	-------	----------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
ア	新学習指導要領に即し、 新工学科において生徒の基礎的な学力及び技術・技能の定着を図り学び続ける人の基盤作り	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストにおいて学年の60%以上が学習到達度C1以上。 「授業のある日は授業以外で1時間以上学習に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。 	1時間以上学習に取り組んでいる生徒の割合は、43%である。教科間で連携し位家庭学習の充実に向け対策を講じる必要がある。	B	教 務 課 進 路 課 各工学科 各 教 科
		<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価のルーブリックを踏まえた授業及び評価を実践している教員100%。 「各授業の目標と自身の取り組む課題がはっきりしている」と答える生徒80%以上。 自身が取得可能な資格・検定について理解している生徒100%。 卒業時の生徒の国家資格・試験における取得・合格者率60%以上。 	観点別学習状況の評価を踏まえた学習評価を実践していると回答した教員の割合が約90%であった。100%するため、研修や情報共有等が必要である。各授業の目標等がはっきりとしていると回答した生徒の割合も約90%であった。今後も、これを継続するための指導計画の見直し等を継続していくことが求められる。	A	教 務 課 各 教 科 各 学 科
イ	I C Tの活用と「主体的・対話的で深い学び」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業に取り組んでいる教員100%。 一人一台端末の効果的な活用に資する授業公開を1回以上実施。 授業を参観した教員100%。 	やや当てはまるを含めると、I C Tを活用した授業を実践している等と回答した教員の割合は90%以上であった。今後もこの状態を継続するために、情報共有等を積極的に行っていくことが求められる。	A	教 務 課 広報情報 各工学科 各 教 科 事 務 部
		<ul style="list-style-type: none"> 授業以外で生徒が議論、協力、発信する場面を設定した教員80%以上。 	校内外で、生徒に発表する機会を定期的かつ計画的に実施できた。	A	
ウ	計画的なキャリア啓発と個に応じた適切な進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学科・学年・分掌が連携し3年間を見通したキャリア啓発活動を企画・実践する。 	学科、学年、分掌で連携を重ね、入学から卒業を見通し各学年で何をすべきか検討を重ねた。	A	教 務 課 広報情報 各工学科 各 教 科 事 務 部
		<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポート、ポートフォリオを有効活用し、各生徒の希望や適性に応じた進路指導を推進する。 	キャリア教育の一環として生徒の活動を記録に残す指導を重ね、生徒個々の進路実現に向けた指導を実施した。	A	

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
エ	豊かな人間性を持ち地域や産業界でリーダーとなる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・準備を終えて授業・実習に臨む生徒 100%。 ・「挨拶や身だしなみの指導に納得できる」と答える生徒・保護者 80%以上。 ・自身が守るべきルールについて考えた生徒 80%以上。 	目標を立てて、テスト等に取り組んでいると回答した生徒割合が 83%であったことから概ね目標を達成することができたと考える。100%とするため反転学習等の方策を検討する必要がある。	A	教 務 課 生 徒 課 各工学科 各 学 年
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が充実している」と答える生徒 80%以上。 ・「掛工へ入学してよかった」と答える 3 年生 90%以上。 ・生徒が参加した学校改善プロジェクトの継続実施。 ・各工学科で一つ以上の外部機関等と連携した課題研究、実習の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が充実している」と答える生徒は 80%以上だが「掛工へ入学してよかった」と答える 3 年生は 85%であった。 ・課題研究、探究フェスタ、ものづくり大会など校内外での発表や情報発信を計画的に実施することができた。 	B	事 務 部 各工学科 各 教 科 各 分 掌 各 学 年 各委員会 各部活動
		<ul style="list-style-type: none"> ・1 カ月(読書週間含む) に 2 冊以上の本を読んだ生徒 50%以上。 	2 冊/1 月読んだ生徒 30%未満である。特に 3 年生は進路実現の影響があると判断する。	B	図 書 課 各学級担任
オ	「ものづくり」の魅力拡大に寄与する教育・広報啓発活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学生が「ものづくり」を体験し魅力を感じる教育プログラムの開発と小・中学校、地域での実施。 ・講座や学校説明会等に参加した児童生徒及び保護者数 延べ 1,000 人以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象ものづくり出前講座は、小学校、図書館等 11 回実施した。中学生対象模擬実習は、29 校から延べ 284 名の参加があった。「ものづくりが好きになった」「楽しかった」と答えた生徒 97.6%であった。 ・年 2 回オープンスクール、夏の 1 日体験入学、ものづくり講座など計画通り実施し、総参加人数は 1000 人を超えることができた。 	A	管 理 職 各工学科 広報情報 ものづくり室
		<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座、説明会、巡回展示他、広報活動の検証と実施。 ・新しいホームページの立ち上げと週あたり 3 回以上の更新。 ・学校公式 Instagram の投稿発信 300 件以上。 	OS2 回、一日体験入学実施。規定の期日(10/1)までに新 HP を立ち上げ。 記事の更新 10 月 5 回、11 月 4 回更新。 投稿数 158 件。今年度フォロー数 350 人アップ。	B	広報情報 全教職員

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
カ	生徒・教職員が 安全・安心に授業や諸活動に取り組む ことができ、地域や保護者から信頼される学校の教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内に悩み事などを話せる（相談できる）教員や仲間がいる」と答える生徒 75%以上。 ・学校全体で1日あたりの欠席 6.0人以下、遅刻 2.0人以下、早退 1.0人以下。 ・支持的・支援的な生徒指導に対する研修の実施。 ・「学校は感染症対策等に配慮して教育活動を行っている」と答える生徒 100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内に悩み事などを話せる教員や仲間がいる」と答える生徒は 75%以上を達成。 ・2学期末で、欠席者 9.14人/日、遅刻者 2.27人/日、早退者 1.69人/日であった。欠席者数については、1日あたり3人以上多いが、遅刻者と早退者数については、概ね目標を達成できたと言える。 ・感染症対策について約 88%の生徒から肯定的な回答を得た。 	B	教 務 課 教育相談室 保健環境課 職員研修 全教職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・「校内が安全に整備、整頓されている」と答える生徒・保護者 80%以上。 	アンケートでは 80%以上の生徒・保護者が「校内が安全に整備、整頓されている」と答えているが、改善を要望する意見をふまえ、施設改善等を検討する。	A	事 務 部 保健環境課 各工学科 全教職員
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の年 3 回以上実施。 ・日常の振り返りに基づく安全教育の毎月実施。 	9月の防災訓練は台風接近により中止したが、定期的な防災訓練を実施し、防災意識の高揚に努めた。	B	総 務 課 各工学科 各 学 年
キ	学科・教科・分掌を超えた業務の平準化・効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの年間時間外在校時間 20%削減。 ・各学科・教科・分掌で業務の平準化又は効率化に向けた提案 1 件以上。 ・一人当たりの年間の休暇取得時間 100 時間以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間は一人当たりでは前年度比 96%、総時間合計は 86%であった。 ・各分掌に業務改善、効率化、適正化を依頼し実施検討中。 ・年次有給休暇、夏季休暇、家族休暇など一人当たり 100 時間以上取得を達成できた。 	B	管 理 職 各工学科 各 教 科 各 分 掌 各 学 年 事 務 部